

# びわこの考湖学

—第3部—

10

目の前をうまごうな魚が泳いでいる。捕りたい！しかし道具がない！このようなき、あなたはどうしますか？私なら、一か八か石を投げつけてます。このような野生の衝動に直結した漁法が刺突漁、つまり鉞やヤスで魚を突き刺す、あるいは鉤で魚を引っかける漁です。

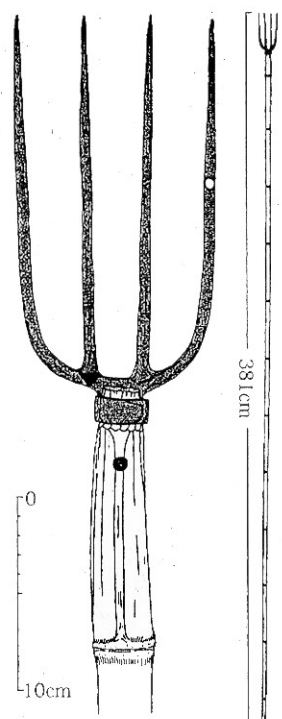
初夏の琵琶湖は、ヤス漁の絶好のフィールドです。松の花粉が琵琶湖の岸を薄緑に染めるころ、大きな鯉が接岸します。浅瀬で静かに待っていると、鯉が足下を悠々と泳いでいきます。この時使うのが、柄の長さが4呎もある長いヤスです。このヤスを泳ぐ鯉めがけて投げつけます。百発百中とはいきませんが、かなり

の確率で当てることができま  
す。そして晩。今度は船でヨシハラに出かけます。舳先であかりを灯し、ヤスの柄を竿代わりに使って、静かに船を動かします。すると、湖底に石のようにじっとしている、鯉や鮒が見つかります。夜の魚は本当に動きません。この魚をめがけて、ヤスを突き立てます。魚を見つけさえすれば、よほどのことがない限り失敗はありません。この漁に使うヤスには2種類あります。ひとつは図に示した先にカエリのないタイプ。もうひとつは先にカエリのあるタイ

## 刺突漁

プです。カエリのあるものは、確実に魚を仕留めることができますが、外すときに、どうしても魚の身を傷めてしまいます。対して、カエリのないタイプは、扱いは難しいのですが、身をあまり傷めない、「玄人」が使う道具なんだそう

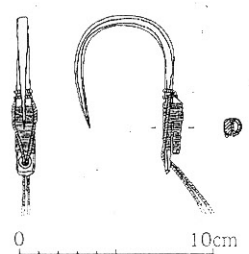
です。晩秋、琵琶湖に流入する河川には、多くのビワマスが遡上します。川の中流域で、ビワスをねらうために使われた漁具が、図に示した鉤です。この鉤に1呎ほどの紐を付



カエリのないヤス①とビワマス漁に使われるヒッカケ漁の鉤

け、そしてこれを竿先に付け、た道具を片手に持ち、片手に箱めがねを持ち流れに入りま  
す。箱めがねで水中を探し、ビワマスを見つけたら鉤先を魚の向こう側に突き出し、そ  
して思いっきり引きまします。鉤はビワマスに突き刺さり、竿  
の先から外れますが、紐が付  
いているので、これをたぐり  
寄せてゲットします。この鉤  
にもヤスのように、カエリの  
有る無し、2種類が有りま  
す。同様に「玄人」が使うの  
は、カエリのない鉤だそうで

す。冷たい川の中で濡れなが  
ら行う漁ですから、大変にき  
ついものがあります。しかし、  
マスを掛けたときの魚の激し  
い動きが紐を通して手に伝わ  
るとき、何とも言えない衝撃  
が身を貫き、寒さも吹っ飛ん  
でしまつそうです。まさに、  
野生の血が沸騰するのでしょ  
う。こうして捕ったビワマス  
は、ご飯に炊き込んだアメン  
ウオご飯にすると最高です。  
(ちなみに、ビワマス漁は10  
月1日から11月30日までの間  
は、ビワマスの産卵期に当た  
り、保護のため禁漁になって  
います)



# 野生の血が騒ぐ 一発必中の技

(財団法人滋賀県文化財保護協会 大沼芳幸)